

事務事業名	普通財産の管理及び処分事務				担当	総務部 企画課 管財係	
政策名	G	効率的で市民にわかりやすいまちづくり			電話番号	0285-83-8103	
施策名	4	財政の健全化			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業		
基本事業名					事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ	
法令根拠						<input type="checkbox"/> 単年度繰返（開始年度 昭和29 年度～）	
予算科目	1.一般会計	2.総務費	1総務管理費	5財産管理費	<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）		
事業概要	普通財産について、管理及び、貸付や売却処分を行っている。						

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段（主な活動） 23年度実績 例年、普通財産の管理、処分、貸付地の契約の更新、許可等を行っているが、平成23年度においては、旧真岡コンピュータ・カレッジの改修工事を実施したため、事業費が増大している。  24年度計画 例年同様、普通財産の管理、処分、貸付地の契約の更新、許可等を行う。	⑤活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移						
	名称	単位	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)
	ア 契約更新件数	件	5	5	8	30	11
	イ 維持管理費	千円	1493	24,050	14,272	70,564	13,601
	ウ 処分件数	件	4	8	21	10	
エ 使用許可件数	件		14	11	7		
オ							
②対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 普通財産	⑥対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移						
	名称	単位	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)
	ア 普通財産の土地面積	平米	1,056,041	582,378	586,202		
	イ 普通財産の建物面積	平米		5,026	7,053		
	ウ						
エ							
オ							
③意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 普通財産の良好な管理、未利用地の削減	⑦成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移						
	名称	単位	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)
	ア 土地の貸付面積	平米	181,488	221,448	220,326		
	イ 土地の売払い金額	千円	38,873	27,419	12,199	41,513	
	ウ						
エ							
オ							
④結果（どんな結果（上位施策）に結びつけるのか） 財政の健全化	⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移						
	名称	単位	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)
	ア 財政力指数		0.986	0.928	0.815	0.804	
	イ 経常収支比率	%	78.6	86.0	83.7		
	ウ 公債費比率	%	11.5	11.4	10.2		
エ 実質公債費比率	%	11.5	11.1	9.6			
オ							

(2) 総事業費の推移		単位	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)
投入量	事業費	国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0
		一般財源	千円	1,493	24,050	14,272	70,564
	事業費計(A)		千円	1,493	24,050	14,272	70,564
	人件費	正規職員従事人数	人	2	3	3	2
		延べ業務時間	時間	160	240	1,398	1,068
		人件費計(B)	千円	668	973	5,967	4,530
	トータルコスト(A)+(B)		千円	2,161	25,023	20,239	75,094

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等	
①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	行政財産としての必要性がなくなり、その用途が廃止された財産（普通財産）の管理が必要になった
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	用途廃止や、貸地の返還等により普通財産となる物件が増加傾向にある。 未利用地の計画的な売却処分を進めているが、景気低迷や不動産価格の先安感等の影響により売却処分が難しくなっている。
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	

2. 1次評価の部 \*原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果(上位施策)に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 普通財産の効率的運用を図ることは、財産の有効利用となる。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 市有財産である。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある 市有財産である。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある インターネットでの売も含め、未利用地等の売却処分等を進めていく。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 普通財産の適正な管理に影響がある。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？  ・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	<input type="checkbox"/> 類似事業がある(類似の事務事業名を記載) <input type="checkbox"/> 類似事業はない  <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 費用対効果のなかで最善の方法を取っている。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずに正社員以外の職員や委託でできないか？ (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 管理件数の増加と配置人員の削減を実施しており最低の人員で実施している。
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 広く公平に売却処分等している。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画)  <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し( <input type="checkbox"/> :目的妥当性 <input type="checkbox"/> :有効性 <input type="checkbox"/> :効率性 <input type="checkbox"/> :公平性) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続 インターネット売上については、売却価格が高くなる傾向にあるが、準備や入札の手間と期間が通常の入札よりかかるなどメリット、デメリットがあるため、費用対効果を検討しながら処分手法を検討しすめる。	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足(説明責任不充分) <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える																								
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																							